

美術研究科絵画専攻 油画／版画／壁画／油画技法・材料

養成人材およびカリキュラム編成の方針

修士課程では、領域を超えて創作研究を複合的に高めグローバルに活躍できる人材の養成を目指している。そのため、各学生が自己の表現領域においてより専門的な創作研究が行なえるよう、各研究室の担当教員による徹底した個別指導のもと、学生の独自性を尊重したカリキュラムを実践している。また、それと同時に、複数の研究室による共同企画や合同授業をカリキュラムに配置することで横断的な連携指導も行っており、さらには、他分野の専門領域の理解を深め、表現内容とその表現手段を社会と対応する美術表現に結びつける方法を修得するために、学外から数多くのアーティスト、キュレーターや評論家を招き多角的な側面から学ぶことができる講義も開設している。

求める入学者像

- ・ 高度な表現力と専門性を有する者
- ・ 自己の表現活動を通し社会的課題へとアプローチすると共に、幅広く世界に貢献出来る者
- ・ 多文化社会において、グローバルな視点と想像力を持ちながら対話し表現出来る者

卒業認定・学位授与の方針

最終年次の「修了制作」を含めた所定の単位を修得した学生を修了と認め、修士の学位を授与する。「修了制作」の評価は、専任教員全員で修了制作作品の審査・採点を行い、評価を決定する。

カリキュラム構成

大学院修士課程において油画は、「油画」「版画」「壁画」「油画技法・材料」の各研究分野に分かれ、全 13 研究室が設置されている。

〔油画〕

研究室ごとに、学生がより高度で専門的な創作研究課題に取り組むことができるカリキュラム編成となっている。また、教員は、企業連携や地域型アートプロジェクト、海外交流などへの参加を学生に積極的に促し、学生が自身の作品や意見の発信を通じて社会的表現について学ぶ機会を設けるとともに、グローバルに活躍することを意識づける指導をしている。

〔版画〕

版画のカリキュラムには、グラフィックアート、版画、プリントメディアが含まれている。版画の四つの基本技法、すなわち凸版印刷、凹版印刷、平版印刷、シルクスクリーン印刷における技術的能力の習得から始まり、ポストデジタル時代の創造および複製の可能性によって補完され、教師と学生は協力して、現代美術に関する中心的な議論に参加するための芸術的表現力を開発する。

約 60,000 年前にネアンデルタール人によって「発明」されて以来、版画は人類の視覚文化のすべての段階を伴い、形作ってきた。ポストデジタル時代の拡張された版画は、引き続きこれを行い、利用可能なすべてのメディアと技術を使用して作品の出版を芸術的実践に変えることをアーティストに可能にする。この学習プログラムは学生にとって大部分が自己決定的であり、教師からの個別のサポートに基づいているが、常にアナログおよびデジタルの印刷および出版方法の分野での技術的能力の習得が含まれる。学士課程での基礎教育から、修士課程では個々の表現と概念的な発展の探求に焦点をあてたカリキュラムとなっている。

〔壁画〕

壁画では、古代より人間の生活、環境、社会と密接な関係の上に成り立ってきた芸術であり、「絵画からはじまること」を起点に壁画技法（フレスコ画・モザイク画・ステンドグラス・陶板）の研究をはじめ、人間の創造活動そのものを総合的に捉えたアートプロジェクトのカリキュラムが構成されている。

[油画技法・材料]

油画技法・材料研究室では、絵画の材料と技術について実験を重ねつつ、油画の歴史的展開への理解を深める実習を随時行うカリキュラムとなっている。また自己表出としての作品制作をより説得力あるものにするために言語表現・デジタル表現等のゼミを導入し、アーティストや画材メーカーの講義からは更に広い見識を得ることを目指す。

教育目標

- ① 創作研究を複合的に高め、世界に向けて発信し領域を超えた展開。
- ② 他領域の理解を深め、自己の表現を社会的表現に昇華する。
- ③ 希少な技術力および知識の会得、またその継承と発展。